

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

1	営学とは:]経営の目的、三つの経営課題、経営学の主要テーマ
2	経済的価値の創出(1):]経済的価値の構成、嗜好的価値、機能的価値、情動的価値、
3	経済的価値の創出(2):]マズローの欲求5段階説、欲求と経済的価値
4	商品とは:製品と商品、商品の経済的価値、商品の類型
5	ブランド:ブランドの意義、ブランドの類型
6	商品市場(1):市場の定義、需要と供給、市場の構成要素(3C)
7	商品市場(2):顧客分析、顧客満足度による分類、ロジャーズの普及理論
8	商品市場(3):競合分析、マーケット・シェア、競争優位性、競争モデル
9	マーケティング(1):マーケティングの4P、商品(Product)
10	マーケティング(2):価格(Price)、販売チャネル(Place)、販売促進(Promotion)
11	会社とは(1):会社の種類-株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、LLP
12	会社とは(2):株式会社の特徴、資本と経営の分離、株式、会社の機関
13	組織マネジメント(1):組織化の意義、経営組織、ライン組織、スタッフ組織
14	組織マネジメント(2):マネジメント・サイクル、予算制度、動機づけ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『ゼミナール経営学入門第3版』 伊丹敬之 / 加護野忠男 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目であり、経済学の基礎を学習する。

科目の概要

経済学の基礎を学習し、現実経済の諸問題について考察できることをめざす。また、

学修目標

経済学の基礎的な概念を理解する。また、日本経済の代表的な問題について理解する。

内容

1	ガイダンス
2	経済学の考え方
3	ミクロ経済学 1 : 市場競争
4	ミクロ経済学 2 :
5	マクロ経済学 1 :
6	マクロ経済学 2
7	金融政策
8	財政政策と財政赤字
9	中間試験
10	バブル崩壊後の日本経済
11	グローバルな金融危機と日本経済
12	外国為替市場と日本経済
13	社会保障
14	日本的経営
15	まとめ

評価

中間テスト(30%)、学期末テスト(70%)で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	統計学基礎		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目であり、データ解析に関する科目の入門的役割を果たしている。

科目の概要

ビジネスにおいては、データを処理して、そこから何らかの結論を導くという統計学的なプロセスは、すべての学生、社会人に必要なことである。数学的には高度な内容を含む統計学は、必ずしも万人になじめるものではなかったが、パソコンが普及したことで、誰にでも使える手法になってきた。そこで、本講義では、パソコンによる統計処理を学習する。

簡単なデータの処理からはじまり、データのグラフ化、確率、推定、検定、分析などすべて、主としてエクセルを使うパソコンでの演習形式で授業を進める。エクセルでの方法を学ぶとともに、なぜその方法が必要なのかに重点をおいて講義・演習する。

科目の目標

統計学の基礎的な諸概念を理解し、パソコンを使って簡単な統計的技法が使えるようにする。

内容

パソコンを操作しながら、統計学の基本を理解していくことを方針とする。毎回、はじめに演習の目的と内容を説明する。その後、課題に取り組む。

授業では次の内容を扱う予定である。

エクセルの使い方

基本統計量

度数分布とヒストグラム

散布図と相関係数

推定と検定

回帰分析

分散分析

評価

中間試験(40%)、学期末試験(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	経営情報システム		
担当教員名	小笠原 富美子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「情報システム」の知識を経営的な観点で学習する。また、社会人になって、必要となる「情報化に関するビジネス用語」を身につけることを目標とする。

内容は、 企業経営と情報システムの関連性について理解する。 経営戦略の立案手法を学習し、経営戦略から情報戦略策定する意義を学習する。 情報化に関するビジネス用語を学習する 情報システムを活用するための基礎知識を身につける。 よいホームページとは、どういうものかを理解した上で、実際にホームページを作成してみる。

内容

1	ガイダンス
2	経営戦略とは 経営戦略策定手順 経営理念の重要性
3	経営戦略(演習) SWOT分析
4	経営戦略(演習) 事例演習基礎
5	経営戦略(演習) 事例演習応用
6	企業経営と情報システムの関連性
7	まとめ
8	情報戦略とは
9	情報戦略策定
10	事例から学ぶ情報戦略
11	情報化に関するビジネス用語
12	よいホームページとは
13	ホームページ作成(演習)
14	これまでの復習
15	まとめ

評価

途中で理解度を確認し、理解を深めるために、小テストを行う。

評価は、ペーパーテスト(小テスト20%、定期試験30%)、演習時のレポート30%、通常の授業態度10%
3分の2以上出席すること評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 使用せず。

【推薦書】

・『情報管理実務』 情報管理研究会監修 内山 力、三浦 智恵子著 産能大学出版部 336.1/J

【参考図書】

- ・『情報化リーダー養成テキスト』 - 戦略的な情報化推進のために - 独立行政法人情報処理推進機構
- ・『ITコーディネータ実践の手引き』 小山 仁、井上正和著 同友館
- ・『ビジュアルIT活用の実際』 内山 力著 日本経済新聞社
- ・『戦略プロフェッショナル』 三枝 匡著 日本経済新聞社

科目名	会計学基礎		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、企業の経済活動を記録・計算し各利害関係者に伝達する機能を有する会計の役割とその基本的な仕組みを学修する科目である。会計を学修する意義を明確にし、企業の経済活動との関連性を理解することが求められる。本科目では、会計の具体的な規則やルールを学ぶ前に、社会においていかに会計が役立ち、社会に影響を与えているのかを、実践を通じて学修した上で、会計学の根幹を成す簿記の原理を学修していく。

科目の概要

まず、会計学の前提知識として、ビジネス経営のシミュレーションを通じて会社経営の基礎を学び、会計の有用性を体得する(講義1,2)。その上で、会計の専門的な用語や財務諸表分析のための具体的な手法を習得し、その知識を実社会の中で応用させるための方法を実践を通じて学修する(講義3~8)。そして、財務諸表を作成するための技術である簿記の原理・原則を学修する(講義9~14)。

学修目標

1. 会計の有用性を実践を通じて理解する。
2. 簿記における基本的な考え方や処理方法を習得し、企業の実態を反映する財務諸表について理解する。
3. 財務諸表から得られる情報を、ビジネスにおける様々な活動に活用できる能力を習得する。

内容

1	会計を学修する意義
2	ビジネスゲーム
3	会計情報の基礎知識(損益計算書,貸借対照表,キャッシュ・フロー計算書)
4	会計分析の基礎知識(財務指標,比率分析,趨勢分析)
5	決算分析実例
6	企業の決算報告
7	会計情報と公認会計士の役割
8	会社組織と経営の仕組み
9	簿記の基礎原理 (簿記の5要素と仕訳)
10	簿記の基礎原理 (転記と試算表)
11	財務諸表の作成
12	商品販売 (三分法,分記法,値引・返品)
13	商品販売 (売上帳,仕入帳,商品有高帳)
14	商品販売 (払出単価の算定)
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（60点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【電卓】受講するには、必ず電卓を購入の上、参加するようにしてください。以下に、検定試験対応の電卓を紹介しますので参考にして下さい。ただし、必ずしも同じ電卓を購入する必要はありません。検定試験に対応したものであれば他の機種でも構いませんので、各自で検討するようにして下さい。「CANON HS-1210TU」「SHARP EL-G36」

【テキスト（教科書）】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜、補助レジュメを用意する。

【参考図書】乾 隆一『これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識 社会人として最低限知っておきたい「会社のしくみ」がわかる』フォレスト出版

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	吉田 武史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、「複式簿記の原理原則」を中心に、「基本的な商業簿記原理及び記帳方法」を理解することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、「期中取引における記帳(講義2~9)」と「決算整理事項等(講義10~14)」を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	現金及び預金 (現金の範囲, 現金過不足, 当座預金)
2	現金及び預金 (当座借越, 小口現金, 小口現金出納帳)
3	手形取引 (約束手形, 為替手形)
4	手形取引 (裏書手形, 割引手形, 手形記入帳)
5	その他期中取引 (貸付金, 借入金, 未収金, 未払金, 前払金, 前受金)
6	その他期中取引 (仮払金, 仮受金, 立替金, 預り金, 商品券)
7	その他期中取引 (固定資産, 有価証券, 租税公課, 修正仕訳)
8	合計残高試算表の作成, 決算手続の意義
9	決算整理 (有価証券の評価替え, 現金過不足)
10	決算整理 (消耗品, 売上原価の算定, 固定資産の減価償却)
11	決算整理 (貸倒引当金, 経過勘定(前払費用, 未払費用))
12	決算整理 (経過勘定(前受収益, 未収収益)), 精算表の作成
13	会計帳簿の締切り
14	財務諸表の作成, 伝票会計
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(20点)と、学修目標に基づく筆記形式の試験(70点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版, TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜, 補助レジユメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会
随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、「複式簿記の原理原則」を中心に、「基本的な商業簿記原理及び記帳方法」を理解することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、「期中取引における記帳（講義2～9）」と「決算整理事項等（講義10～14）」を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	現金及び預金（現金の範囲，現金過不足，当座預金）
2	現金及び預金（当座借越，小口現金，小口現金出納帳）
3	手形取引（約束手形，為替手形）
4	手形取引（裏書手形，割引手形，手形記入帳）
5	その他期中取引（貸付金，借入金，未収金，未払金，前払金，前受金）
6	その他期中取引（仮払金，仮受金，立替金，預り金，商品券）
7	その他期中取引（固定資産，有価証券，租税公課，修正仕訳）
8	合計残高試算表の作成，決算手続の意義
9	決算整理（有価証券の評価替え，現金過不足）
10	決算整理（消耗品，売上原価の算定，固定資産の減価償却）
11	決算整理（貸倒引当金，経過勘定（前払費用，未払費用））
12	決算整理（経過勘定（前受収益，未収収益）），精算表の作成
13	会計帳簿の締切り
14	財務諸表の作成，伝票会計
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点），通常の授業態度（10点）により評価を行い，60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版, TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜, 補助レジユメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会
随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、簿記の基礎的な理解を得た人たちが、その能力をさらに一段と高めることができるようにすることであり、また企業の即戦力としての期待にこたえられるようにすることである。そして最終的な目標として日商簿記検定 2 級を狙う。

内容

1	当座預金と当座借越、銀行勘定調整表の作成
2	有価証券の売買・評価・貸借
3	有価証券の貸借、差入れ、預り、保管
4	債権債務取引、債務の保証、未決算勘定
5	為替手形の振出、手形の裏書・割引
6	手形の更改、不渡り手形、荷為替手形
7	貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金
8	商品勘定と売上原価の計算、棚卸減耗、商品評価損
9	未着品取引、委託販売・受託販売
10	割賦販売、試用販売・予約販売
11	有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却・除却
12	無形固定資産、投資その他
13	販売費、一般管理費
14	営業外収益、営業外費用
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(20点)と、学修目標に基づく筆記形式の試験(70点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級:商業簿記Ver.6.0』T A C 出版, T A C簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級:商業簿記Ver.6.0』T A C 出版

その他適宜, 補助レジュメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会

随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 2 応用		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成すとされる「簿記」の原理と理論に関する基礎を理論的・体系的に学修することをねらいとする科目であり、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について学修していく科目である。具体的には、「簿記演習 2 基礎」に引き続いて、日商簿記 2 級の範囲を学習していく。

科目の概要

講義では随時「簿記演習 2 基礎」における重要なテーマについて再度取り扱うことにより、より深い理解を促していく。そのため、履修の際は、該当箇所を必ず復習して参加するようにしてもらいたい(講義1~3,11~14)。その他、資本会計(講義4,5)や社債に関する応用的な論点を取り扱い(講義7,8)、日商簿記 2 級の個別取引の主要論点を完結させていく。

学修目標

1. 複雑な企業取引の内容を理解し、会計処理方法を習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等の重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表の全体から仕訳の意味を理解し、複合的な応用論点に対応できるようにする。

内容

1	一般商品売買, 銀行勘定調整表
2	有形固定資産, 無形固定資産と繰延資産
3	引当金, 有価証券
4	資本会計 - 株式の発行
5	資本会計 - 剰余金の配当と処分
6	合併会計, 税金会計
7	負債会計 - 社債の発行
8	負債会計 - 社債の臨時買入償還
9	精算表, 財務諸表の種類(損益計算書の分類, 貸借対照表の分類)
10	財務諸表の作成, 伝票会計
11	特殊商品売買 (予約販売, 未着品売買, 委託販売, 受託販売)
12	特殊商品売買 (試用販売)
13	特殊商品売買 (割賦販売)
14	特殊な為替手形, 手形の裏書と割引, 手形の不渡りと更改
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(20点)と、学修目標に基づく筆記形式の試験(70点)、通常の授業態度(10点)に

より評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』T A C 出版，T A C簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』T A C 出版

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会
随時教室にて紹介する。

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	需要予測とシミュレーション		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会においては、過去のデータに基づいて、予測モデルを作成し、そのモデルに基づいたシミュレーションを実施することによって、不利益を最小限に抑えた効率の良い運用が可能となるような現象が多数存在している。条件を変化させることにより、最も最適な運用方法を見つけ出すことがシミュレーションの目的である。

本科目ではビジネスの現場で求められるシミュレーションの基礎知識と技術を、Excelを用いた演習を通して学習していく。

内容

- 1 需要予測とは・時系列分析の基礎
- 2 移動平均法
- 3 指数平滑法(1)
- 4 指数平滑法(2)
- 5 ローン返済(1) 定額返済モデル
- 6 ローン返済(2) 繰上げ返済モデル
- 7 ローン返済(3) 応用課題
- 8 外貨預金シミュレーション(1)
- 9 外貨預金シミュレーション(2)
- 10 外貨預金シミュレーション(3) レポート作成
- 11 PPM分析(1)
- 12 PPM分析(2)
- 13 ABC分析
- 14 PPM分析とABC分析の応用課題
- 15 まとめと復習

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 課題の提出状況と達成度(40%)
- 2 . 最終課題の達成度(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ シミュレーション』荒木 勉・栗原和夫著(実教出版)

『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 需要予測』荒木 勉著(実教出版) 336.1/E/1

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修かもくである。

科目の概要

インターネット上での様々な経済取引が拡大している。そこで、本講義では、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げることとする。インターネットの仕組みや歴史からスタートさせ、インフラ系の事業からインターネット上のショッピング、そして企業間取引までの問題を幅広く扱う。

また、インターネットを巡る諸問題についても扱う。

学修目標

インターネットに関わるビジネスモデルについて理解する。

内容

1. インターネットの歴史と仕組み
2. 情報通信産業の規制緩和
3. 認証システムと暗号化
6. ユビキタス社会
7. SNSと動画配信
8. 検索サイト
9. インターネットのショッピングサイト
10. 情報公開とインターネット
11. インターネットと政府の政策
12. 通信と放送の融合
13. 携帯電話産業とインターネット
14. コンテンツ産業
15. まとめ

評価

毎回の課題(30%)、最終のレポート(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスコミ4媒体から驚異的な普及でその影響力を延ばすインターネットに人々の関心は移り、仕事や研究、私生活を取り巻く環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点+ミニレポート40点=100点 60点以上が合格

*ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

1	「働く」ということを考える
2	お金持ちの考え方や生活態度
3	「お金」と仕事
4	「お金」とライフ・ステージ
5	「お金」のマネジメント
6	投資入門
7	新しい「お金」の考え方
8	ビジネスポイント - ビジネスが生まれる条件
9	ビジネス・ポイントの構成要素
10	ビジネスモデル - ビジネスの構成要素
11	ビジネス・イノベーション
12	起業 - ビジネスの企画開発
13	起業のケース・スタディ
14	女性とビジネス
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

1	「働く」ということを考える
2	お金持ちの考え方や生活態度
3	「お金」と仕事
4	「お金」とライフ・ステージ
5	「お金」のマネジメント
6	投資入門
7	新しい「お金」の考え方
8	ビジネスポイント - ビジネスが生まれる条件
9	ビジネス・ポイントの構成要素
10	ビジネスモデル - ビジネスの構成要素
11	ビジネス・イノベーション
12	起業 - ビジネスの企画開発
13	起業のケース・スタディ
14	女性とビジネス
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業戦略論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業は、自らが生産した商品を、市場において消費者や顧客に販売し利益を得ることによって、事業活動を継続する。しかし、市場において競争相手に打ち勝たなければ、顧客を失い販売金額が減少し、損失が発生する。そして、そのような赤字経営が続けば、企業は倒産し消滅せざるを得ない。このように、企業は、強いものが生き残り弱いものが消滅するという、市場の厳しい生存競争にさらされている。資本主義経済においては、このような淘汰のプロセスが、経済にダイナミズムをもたらし、経済の活性化を促している。

戦略は戦争における敵に勝つための総合的な方法論・技術論である。企業戦略は、市場における競争を企業間戦争と捉え、企業がいかに競争相手と戦いいかに勝ち残るかという技術論であり方法論である。本講座では、経営学の基礎的学習からさらに一歩進め、管理から経営へ、経営から戦略へと続いてきた経営理論の流れをたどることにより現代の戦略経営についてその背景を理解すると同時に、いろいろな戦略論についてその内容と意義を学ぶ。

内容

1	戦略論の基礎
2	伝統的管理論：テラー、ファヨール、ウェーバー
3	ホーソン実験：メイヨー、レリスバーガー
4	動機づけ理論：マズロー、アージェリス、マクレガー、ハズバーク
5	会社での仕事
6	リーダーシップ論：資質論、形態論、状況適合理論
7	バーナードの組織論
8	サイモンの意思決定論
9	意思決定論の展開：高橋
10	戦略論の系譜：チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーク、奥村
11	成長戦略の基礎概念
12	競争戦略の基礎概念
13	インフラ戦略の基礎概念
14	ケース・スタディ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

講義において関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

【推薦書】『ゼミナール経営学入門第3版』 伊丹敬之 / 加護野忠雄 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	運営管理論		
担当教員名	山口 文彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。

経営科学とは、経営上の問題を対象に、問題の要因と問題との関係を特定して数学的なモデルを構築し、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法などについて学ぶ。

分析手法を理解し、Excel を用いてシミュレーションする方法を習得する。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題をコンピュータを用いて自分で解決できるようになることを目標とする。

内容

- 1) 経営科学の概要
- 2) 統計学復習(1) 度数分布
- 3) 統計学復習(2) 統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析
- 6) Excel による実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excel による実習
- 9) 線形計画法(1) グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2) シンプレックス法
- 11) Excel による実習
- 12) 待ち行列問題の概要
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excel による実習

評価

演習などにおける授業態度(30%)

レポート課題(70%)

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	財務会計論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の企業の財務情報の多くは、財務諸表という形で世間に公表されている。特に新聞の株式面に名前を載せている企業の財務諸表は、誰でも眼にすることが可能である。本講義においては、財務諸表を正しく読み取り企業情報を理解することができるようになることを目標に、財務諸表の読み方及びその背景となる会計理論の基礎について学習する。また理論だけでなく実際の事例も説明していく予定ある。

内容

1	会計の基礎
2	わが国の会計制度
3	会計公準と企業会計原則
4	一般原則
5	貸借対照表の基礎概念
6	資産会計(1)
7	資産会計(2)
8	負債会計
9	純資産会計
10	損益計算書の基礎概念
11	収益・費用会計(1)
12	収益・費用会計(2)
13	連結財務諸表
14	会計をめぐる国際的動向
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)、授業態度(20点)、小テスト及び小レポート提出(20点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用教科書】:

八田進二・橋本尚著・『財務会計の基本を学ぶ』・同文館出版

科目名	原価計算論		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

原価計算制度の目的は、真実の原価を確定して財務諸表の作成に役立て、原価を分析し、これを経営管理者に提供し、業務計画および原価管理に役立てることである。これまでの商業簿記の学習においては、企業は完成品を仕入れ、販売することを前提にしてきたが、工業簿記においては、商品を自ら製造する企業、いわゆる製造業が前提となる。そこでは、製品等の資産勘定を財務諸表に記載するために、適切な製造原価の計算が必要不可欠となる。また、企業経営においては、経営者が将来の企業のあり方を計画し、その成果が期待どおりに進んでいるかを管理するための情報が必要となり、企業が製造する製品原価の計算を中心とした情報が活用される。本科目では特に、前者の製品原価を具体的に計算する手法である原価計算に焦点を当てていく。

講義では、財貨又は用役の消費を貨幣価値的に表わしたものである「原価」の要素について学修し(講義1~5)、その上で、最も基本的な製造計算方法である「個別原価計算」を基礎として原価計算制度の概要について学修していく(講義6, 7)。後半では、より複雑な原価計算の形態である「部門別原価計算(講義8, 9)」や「総合原価計算(講義10~14)」を具体的に学修していく。

学修目標は次の通りである。1. 簿記会計の知識を原価計算と融合させ、相互に関連付けて理解する。2. 原価の適切な分類と集計する能力を習得する。3. 様々な製造形態に適した原価計算制度を理解する。4. 計算された原価を差異分析等、内部管理目的に適用できる能力を習得する。

内容

1	工業簿記の基礎
2	工業簿記の勘定連絡図, 材料費 (材料費の計算)
3	材料費 (予定価格, 減耗)
4	労務費
5	経費
6	個別原価計算 (製造間接費の予定配賦)
7	個別原価計算 (原価差異分析)
8	部門別原価計算 (製造部門と補助部門)
9	部門別原価計算 (製造部門費の予定配賦)
10	総合原価計算 (総合原価計算の概要)
11	総合原価計算 (総合原価計算, 仕掛品)
12	総合原価計算 (減損費の計算)
13	総合原価計算 (総合原価計算総合問題)
14	工程別原価計算
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』T A C 出版，T A C簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』T A C 出版

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】随時教室で紹介する。

科目名	簿記演習 3		
担当教員名	吉田 武史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法及び、製造業を営んでいる企業特有の会計（工業簿記）を学修する科目である。具体的には、「簿記演習 2 基礎」、「簿記演習 2 応用」及び「原価計算論」に引き続いて、日商簿記 2 級の商業簿記及び工業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。商業簿記については、いわゆる「構造論点」と呼ばれる比較的難解な論点を中心に学習していく。工業簿記については、「内部管理目的の会計（管理会計）」について具体的に学習していく。本科目をもって日商簿記 2 級の全範囲が終了するため、是非、日商簿記 2 級の合格を目指してもらいたい。なお、商業簿記の論点を扱う講義の前半時点で「全経簿記 2 級」の資格にも挑戦することができるため、修学の度合いに応じて当資格の獲得も視野に入れるようにしてもらいたい。

講義の前半部分は、「簿記演習 2 応用」から引き続き商業簿記の構造論点にテーマに絞って講義を行っていく（講義 1～6）。講義の後半部分は、「原価計算論」から引き続き工業簿記の応用的な論点にテーマを絞って講義を行っていく（講義 7～14）。

学修目標は次の通りである。1. 帳簿組織の基本的な構造を理解する。2. 細分化された会社組織における基本的な会計制度について理解する。3. 内部管理目的の会計と外部報告目的の会計の違いを理解する。4. 原価計算を中心として会計情報を収集し分析を行うための方法を理解する。

内容

1	帳簿の締切り
2	本支店会計（本支店会計概論，内部取引）
3	本支店会計（合併財務諸表，未達取引）
4	本支店会計（内部利益，内部利益の調整）
5	本支店会計（合併財務諸表の作成）
6	帳簿組織の基礎
7	工業簿記と財務諸表
8	標準原価計算（標準原価計算の手續）
9	標準原価計算（原価差異の分析）
10	標準原価計算（財務諸表の作成）
11	直接原価計算（固定費調整）
12	直接原価計算（CVP分析基礎）
13	直接原価計算（CVP分析応用）
14	総合原価計算（再考）
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』TAC出版

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会
随時教室にて紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでおくことが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

1、2年次での学習を踏まえ、3年次よりゼミでの学習を進めていく。卒業論文作成のための基礎を学習する。

学修目標

ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を高めることと、経済学や経営学に対する専門的知識、思考能力を高めしていくことを目標にする。

内容

日本経済や経営に関する文献を読み、基礎的な知識の確認と論点について把握する。その際、1章ごとに数人で分担し報告する。その過程でレジユメの作り方、報告の方法などを習得させる。テキストは学生と相談して決める。その後、各自自らのテーマを設定し、レポートを作成していく。その際、テーマの設定の方法、資料の集め方、アウトラインの作り方などを指導していく。

評価

毎回の授業でのディスカッション(50%)、発表内容(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

急速なIT技術の進歩と経済活動のグローバル化に伴い、現代の企業を取り巻く環境は大きく変化している。そのような中で、「英語」「IT」「会計」は、現代のビジネスパーソンの「三種の神器」といわれ、これらの修得は必須のものとなっているのが現状である。それらの現状を踏まえ、演習 では、「会計」を中心として「英語」及び「IT」へとその範囲を広げ、簿記会計のみならず、「英文会計」及び「IT会計」を修得し、現代のビジネスパーソンに必要な知識基盤を構築していく。本演習を通じて、会計を基礎から学び、実社会における実践力と高い専門性を養うことが求められる。

内容

演習 ではまず、会計に関するより深い理解を促すために基礎から学習し直し、国際会計との比較しながら英文会計へと応用させていく。さらに、会計をより実践的なレベルで活用できるようになるために、パソコンによる会計実務を学び、実践的な演習を通じて、IT会計の基礎を学習していく。

評価

演習に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版, TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜, 補助レジュメを用意する。

【参考図書】井上 良二『新版 財務会計論』税務経理協会, 桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房

その他, 随時教室にて紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

前期では、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていく。

評価

評価方法は、ゼミ参画状況(70点)、課題提出(30点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介。

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 ビジネスデータの捉え方
- 2 SPSSによるデータ解析(1)データの扱い
- 3 SPSSによるデータ解析(2)時系列データ
- 4 SPSSによるデータ解析(3)相関・回帰
- 5 SPSSによるデータ解析(4)平均の差の検定
- 6 SPSSによるデータ解析(5)分散分析
- 7 SPSSによるデータ解析(6)因子分析
- 8 インターネット上のデータの扱い
- 9 調査手法(1)
- 10 調査手法(2)
- 11 レポート作成手法
- 12 プレゼン手法
- 13 課題作成(1)
- 14 課題作成(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度 (30%)
- 2 . 課題発表の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『SPSS による統計処理の手順』石村貞夫著(東京書籍)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでおくことが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

演習 での学習を踏まえ、卒業論文執筆のための準備に取り掛かる。

学修目標

卒業論文作成のための方法を身につける。

内容

各自で卒論のテーマを決め、そのテーマに応じた資料収集、文献リストの作成、テーマの概要作成を段階を踏んで行っていく。そして、途中で演習の中で発表しディスカッションしていくことにより、卒論の完成度を高めていく。

評価

卒論作成に向けた準備(30%)、最終の発表(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 では、基礎的な会計知識を軸として、「英語」「IT」へと応用・発展させていった。演習 においては「会計」に関するより高度で専門性の高い会計論点にテーマを絞って会計に関する高い専門性と深い考察力を養い、卒業研究において実施される具体的な業界企業の分析/研究に備えていく。そして、これらの会計知識を基礎として、各学生が興味関心のある業界や企業を会計的な視点から分析/研究するための基盤を構築していく。

内容

演習 では、連結財務諸表、キャッシュ・フロー計算書、リース会計、減損会計、資産除去債務、税効果会計、1株当たり情報、セグメント情報等の学問上及び実務上、重要な論点にテーマを絞って演習を行っていく。これらの会計項目は、新聞紙面や専門雑誌・書籍において頻繁に話題となるため、学生自身が実際に学習した会計項目に関する記事等を調査することができる。そこで、これらの会計項目に関する調査分析を行ってもらい、発表やディスカッションを通じて理解を深めていく。そして、これらの調査研究を通じて、具体的な分析/研究の対象となる業界企業を選定し、卒業研究の準備を行っていく。

評価

演習に対する積極的な準備と意欲的な態度(40点)及び、課題発表等の達成度(60点)を総合して判断し、評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記1級商業簿記・会計学 2 Ver.8.0』TAC

出版、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記1級商業簿記・会計学 3 Ver.8.0』TAC出版

その他適宜、補助レジュメを用意する。

【参考図書】井上 良二『新版 財務会計論』税務経理協会、桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

後期には、前期に引き続き、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていくと同時に、マーケティングや経営に関する研究テーマを選択し、グループによる調査研究を行う。

評価

評価方法は、グループ研究の成果(40点)、ゼミ参画状況(50点)、課題提出(10点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介。

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 マーケティングの基礎(概説)
- 2 発表分担とプレゼン・レジュメ作成技法
- 3 分担発表(1)市場選択 事業機会と事業領域
- 4 分担発表(2)市場選択 標的市場
- 5 分担発表(3)市場分析 市場データ・消費者行動分析
- 6 分担発表(4)市場分析 競争・流通分析
- 7 分担発表(5)市場対応 製品・価格対応
- 8 分担発表(6)市場対応 コミュニケーション対応
- 9 分担発表(7)市場対応 流通チャンネル対応
- 10 分担発表(8)市場コミュニケーション サービスマーケティング
- 11 分担発表(8)市場コミュニケーション ソーシャルマーケティング
- 12 卒論テーマ作成のためのワーク
- 13 卒論テーマ作成のためのワーク
- 14 卒論テーマと研究方法
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度 (30%)
- 2 . 課題発表の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『マーケティング戦略』和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著(有斐閣)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 応用課題
- 15 復習・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における課題提出(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	運営管理論基礎		
担当教員名	山口 文彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。

経営科学とは、経営上の問題を対象に、問題の要因と問題との関係を特定して数学的なモデルを構築し、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法などについて学ぶ。

分析手法を理解し、Excel を用いてシミュレーションする方法を習得する。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題をコンピュータを用いて自分で解決できるようになることを目標とする。

内容

- 1) 経営科学の概要
- 2) 統計学復習(1) 度数分布
- 3) 統計学復習(2) 統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析
- 6) Excel による実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excel による実習
- 9) 線形計画法(1) グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2) シンプレックス法
- 11) Excel による実習
- 12) 待ち行列問題の概要
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excel による実習

評価

演習などにおける授業態度(30%)

レポート課題(70%)

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	簿記演習 3 中級		
担当教員名	吉田 武史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法及び、製造業を営んでいる企業特有の会計（工業簿記）を学修する科目である。具体的には、「簿記演習 2 基礎」、「簿記演習 2 応用」及び「原価計算論」に引き続いて、日商簿記 2 級の商業簿記及び工業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。商業簿記については、いわゆる「構造論点」と呼ばれる比較的難解な論点を中心に学習していく。工業簿記については、「内部管理目的の会計（管理会計）」について具体的に学習していく。本科目をもって日商簿記 2 級の全範囲が終了するため、是非、日商簿記 2 級の合格を目指してもらいたい。なお、商業簿記の論点を扱う講義の前半時点で「全経簿記 2 級」の資格にも挑戦することができるため、修学の度合いに応じて当資格の獲得も視野に入れるようにしてもらいたい。

講義の前半部分は、「簿記演習 2 応用」から引き続き商業簿記の構造論点にテーマに絞って講義を行っていく（講義 1～6）。講義の後半部分は、「原価計算論」から引き続き工業簿記の応用的な論点にテーマを絞って講義を行っていく（講義 7～14）。

学修目標は次の通りである。1. 帳簿組織の基本的な構造を理解する。2. 細分化された会社組織における基本的な会計制度について理解する。3. 内部管理目的の会計と外部報告目的の会計の違いを理解する。4. 原価計算を中心として会計情報を収集し分析を行うための方法を理解する。

内容

1	帳簿の締切り
2	本支店会計（本支店会計概論，内部取引）
3	本支店会計（合併財務諸表，未達取引）
4	本支店会計（内部利益，内部利益の調整）
5	本支店会計（合併財務諸表の作成）
6	帳簿組織の基礎
7	工業簿記と財務諸表
8	標準原価計算（標準原価計算の手続）
9	標準原価計算（原価差異の分析）
10	標準原価計算（財務諸表の作成）
11	直接原価計算（固定費調整）
12	直接原価計算（CVP分析基礎）
13	直接原価計算（CVP分析応用）
14	総合原価計算（再考）
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級：商業簿記Ver.6.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記 Ver.5.0』TAC出版

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】小林 秀行『現代基本簿記』税務経理協会
随時教室にて紹介する。

科目名	企業情報システム基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP(統合基幹情報システム)パッケージソフトの世界標準となっているSAP社、ならびに、SAP-R3の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理(MM)、生産管理(PP)、販売管理(SD)、管理会計(CO)、プロジェクト会計(PS)のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム1の既習が望まれる。

内容

1	企業における業務システムの概要
2	取引入力 of 復習
3	取引検索 of 復習
4	購買活動に関する業務(1):業務処理の理解、取引入力 of 説明
5	購買活動に関する業務(2):取引入力 of 練習
6	生産活動に関する業務(1):業務処理の理解、取引入力 of 説明
7	生産活動に関する業務(2):取引入力 of 練習
8	販売活動に関する業務(1):業務処理の理解、取引入力 of 説明
9	販売活動に関する業務(2):取引入力 of 練習
10	管理会計と財務会計について:会計システムの理解、取引入力 of 説明
11	経営における組織管理と管理会計について:取引入力 of 説明・練習
12	英文による上記会計処理演習
13	R/3を操作するためのプログラミング基礎
14	購買・生産・販売に至る一連の業務活動プロセスについての練習
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度(20点)、毎回の演習問題の提出(20点)、期末試験(50点)による総合的な評価により、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム応用		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP(統合基幹情報システム)パッケージソフトの世界標準となっているSAP社、ならびに、SAP-R3の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理(MM)、生産管理(PP)、販売管理(SD)、管理会計(CO)、プロジェクト会計(PS)のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム1の既習が望まれる。

内容

1	企業における業務システムの概要
2	取引入力 of 復習
3	取引検索 of 復習
4	購買活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
5	購買活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
6	生産活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
7	生産活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
8	販売活動に関する業務(1): 業務処理の理解、取引入力 of 説明
9	販売活動に関する業務(2): 取引入力 of 練習
10	管理会計と財務会計について: 会計システムの理解、取引入力 of 説明
11	経営における組織管理と管理会計について: 取引入力 of 説明・練習
12	英文による上記会計処理演習
13	R/3を操作するためのプログラミング基礎
14	購買・生産・販売に至る一連の業務活動プロセスについての練習
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度(20点)、毎回の演習問題の提出(20点)、期末試験(50点)による総合的な評価により、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	国際ビジネス実務		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル時代において非常に身近なものとなりビジネス遂行の上で重要な地歩を占めることになった国際ビジネスの基本を実務面から学習する。

国際ビジネスのうち、貿易に代表される国際商取引に関する実務の基本を前半で、ビジネスの海外展開に伴う企業の海外進出における基本的諸問題を後半で学習する。

馴染みの薄い用語が出てくるが、それについては極力わかりやすく説明するがそれでもわからない場合は授業中に積極的に質問をし疑問点を解明しておくことが大切である。

国際ビジネス関連記事は毎日のように新聞紙面を賑わしている。それらを講義内容と関連させ読むことで一層理解が深まる。

内容

下記が基本スケジュールであるが状況により多少前後する。

1	授業内容紹介
2	国際商取引の概要 貿易が行われる理由 貿易の形態
3	間接貿易と直接貿易 貿易の特徴
4	貿易と取引条件
5	貿易と決済
6	貿易と為替リスク
7	貿易と法
8	貿易と国際協定
9	前半まとめ
10	企業の海外進出
11	企業の海外進出
12	海外進出と企業経営(海外進出と問題点)
13	海外進出と企業経営(海外進出と問題点)
14	海外進出と企業経営(海外進出と問題点)
15	後半まとめ

評価

試験 80% 授業時パフォーマンス 20%
60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず。

科目名	ブランド戦略論		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ブランド論」を修得するには「マーケティング」の理解は不可欠な要件である。そこで、本講座では「マーケティング」を学ぶことで、「ブランド」の本質を理解をする。

1. 「マーケティング」の今日的解釈: 「マーケティング」は単に企業が売上・利益を増大させるための発想ではなく、常に変化する社会に正しく対応するための「変化対応学」と位置づけ「マーケティング」の今日的意義を理解する。
2. 「ブランド」に対する理論的理解: 「ブランド」とは自社の展開する商品やサービスの存在を認識してもらうことは当然だが、更に重要なことはそれを使い続けていただくことである。そのためにはその商品やサービスが持つ「質」の高さが重要となる。「トライアル・ユース」(試し買)と何回も購入する「リピート・ユース」のバランスの中に真の「ブランド」は存在する
3. 商品開発時の手法の整理: 商品開発の真の目的は「ブランド」にすることにある。「リサーチ」の正しい活用を説明することで、より良い商品やサービスの開発の手法・考え方を履修する。
4. 「ブランド」開発の組織のあり方: 「ブランド」を生み出すにはより良い組織がなければならないが、そこで今日の「ポスト資本主義時代」にあって、良き「ブランド」を誕生させるための組織にあり方についてを考える。

尚、当該講座を履修し「マーケティング」発想を身に着けることで、より充実した人生観を持ち、精神的にも豊かな生活が実践可能な授業内容になるよう配慮する。

内容

1	授業全体の流れを概観すると同時に、「ブランド」とは何かを理解する。
2	「ブランド」開発に必要な「マーケティング」理論を解説する。
3	「マーケティング」の歴史的考察と「経済学」との関係性を解説する。
4	創造的「マーケティング」発想の構造について説明する
5	創造的「ブランド」開発の基本について解説する。
6	情緒的ブランド価値(ピイトン等)と機能性価値ブランド(アタック等)の相違点を解説する。
7	創造的「ブランド」開発・育成の基本を説明する。
8	創造的「ブランド」創出と商品開発の実例を説明する。
9	ヒット商品誕生のための要因を整理し商品開発の基本を説明する。
10	商品開発とリサーチの関係について具体例を上げて解説する。
11	新しい「リサーチ」の活用の考え方を説明することで「リサーチ」の本質と機能を理解する。
12	「ブランド」を創出し育成するための組織のあり方について説明する
13	社会の変化に対応した「ブランド」の有り方について解説する。
14	「ブランド論」を理解することで、日本企業を元気にする処方箋を考える。
15	まとめ(「ブランド論」の理解を確認する)

評価

本講座における評価方法は、原則として出席の3分の2以上を満たして上で、期末テスト（ペーパーテスト）等により総合評価をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『目盛りを変えろ 日本が見える』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

『企業改革への道 - 顧客視点の発想 - 』 崎山 嗣夫著 （日本経済新聞社）

科目名	国際経営論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化時代を迎え、日本企業も従来の年功序列、終身雇用といった日本的慣行が崩壊しつつある。現在、個々の従業員の能力が問われる時代となった。本講では、こうした経営のグローバル化の問題が生じた理由を歴史的に概説するとともに、今後企業社会で生じる様々なビジネス活動の問題点を国際経営戦略論の立場から多角的に検討する。さらに、21世紀にむけた地球企業社会の方向性を最後に明示し、将来の就職先を決定するさいのヒントを提示する。

内容

1.国際経営の基礎 国際化と企業経営の問題点を基礎からわかりやすく概説し、身近な例から21世紀を生きるうえで、誰もが知っておくべき経営知識を解説し、就職で有利になるように導く。 2.国際経営の史的展開(ビデオ教材使用) 20世紀初頭の米国ビッグ・ビジネスの成立を中心に、19世紀後半以降の多国籍企業の展開、そして近年のグローバル企業について歴史的に解説する。 3.国際経営の実践(ビデオ教材使用) デュポン、HONDA、トヨタ、日産、SONY、富士通などの大企業および中堅、中小企業など、多数の事例を挙げてそのグローバル戦略を検討する。 4.国際経営と文化 異文化経営の問題点を解明し、南北問題、そして日本の経営の問題点まで言及する。 5.グローバル時代における日本企業の課題 21世紀に向けての高度先端産業および航空・宇宙・リゾート産業の再編、企業と地球環境問題など、さまざまな問題点を多角的に検討し、グローバル企業の方向性を探っていく。最後に、日本企業の今後の課題を提示するとともに、将来の就職へのアドバイスを含めて全体を総括する。

評価

平常点：受講態度、レポート等で総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』(中央経済社)、笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』(中央経済社)、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』(同文館出版) 335.5/R、日経新聞、その他授業中に指示する。

科目名	企業の危機管理		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、ビジネス経済学を履修後に、経済学的な視点からの企業を取り上げる。

科目の概要

日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。また、企業が立ち向かう様々な危機を具体的に取り上げ、どのようにその危機を乗り越えていくかを検証していく。また、近年話題のM&Aや会社法改正についても取り上げる。さらに、雇用の問題を企業側、労働者側双方から見ていく。

学修目標

企業論に関する基礎的な概念と、現在の企業が抱えている諸問題について理解することを目標にする。

内容

1	ガイダンス
2	企業とは何か
3	株式会社の歴史
4	株式会社の仕組み
5	コーポレートガバナンス
6	敵対的買収
7	CSR
8	財閥と企業グループ
9	グローバル化と企業
10	日本的経営
11	日本的雇用慣行
12	正規雇用と非正規雇用
13	日本と世界の経営比較
14	企業不祥事
15	まとめ

評価

中間のレポート(40%)、最終のレポート(60%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	企業倫理		
担当教員名	松本 邦明、永野 康雄		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講座では、学生が、これからビジネスの各分野へ進むことを考慮して、企業を見る眼を養うとともに企業人あるいは社会人として如何にあるべきか、どのように行動すべきかを理解し、自らのビジネスキャリアの構築についての指針を持てるように配慮しています。

本講座では、企業を取り巻くステークホルダー(利害関係者)との関係において、どのような課題を抱えているかを解説します。経済、環境、倫理の三つの切り口(トリプル・ボトムライン)から考察を加えます。また、激しく変化している社会のなかで、21世紀を形作るどのような潮流があるのか、そしてなぜ企業倫理が必要とされるのかを明らかにします。また、いくつかの企業の事例を取り上げその倫理課題解決へむけての具体的な取組をご紹介します。

本科目を履修することによって、学生は、グローバル化した現代社会の中で企業が社会からその存在を許容される根拠は何か、望ましい企業活動とは何か、個人と組織はどう関わり合っていくべきなのかという基本的な課題についての考え方や、わが国及び世界各国で検討が進められている最新事情(コーポレートガバナンス、環境マネジメント、コンプライアンス、企業の社会的責任など)を理解します。

内容

1	個人倫理と人間行動(分かっているのに何故、違反をしてしまうのだろうか?)
2	個人倫理と組織倫理(個人倫理さえしっかりしていれば、組織はうまく行くのだろうか?)
3	経営倫理(企業倫理)は何故今必要なのか?
4	経営倫理の動向(米国、欧州、東南アジア、日本の動向)
5	経営倫理活動の実践 その
6	経営倫理活動の実践 その
7	経営倫理と社会
8	株式会社はだれのものだろうか?
9	アダムスミスの「道徳感情論」を学ぶ
10	「企業の責任は利益を生むことである」?
11	「ISO社会責任ガイドライン」の制定とその内容について
12	「ISO環境マネジメントシステム」の狙いはなにか
13	ある食品企業の環境問題への取り組み事例
14	食品製造工場訪問(食品安全・環境への取り組みの実情)
15	まとめ

評価

平常点60点(授業参加点、随時小レポートなど)、期末テスト40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【推薦書】 『経営倫理』 日本経営倫理学会 [監修] 水谷雅一 [編著] 同文館出版 335.15/M
『CSR(企業の社会的責任)入門』 岡部幸徳、松本邦明共著 日本技能教育開発センター

- 【参考図書】 『会社は誰のものか』 岩井克人著 平凡社ライブラリー
『アダム・スミス』 堂目卓生著 中公新書
『ビジネス倫理学』 中谷常二著 晃洋書房

科目名	コーポレートコミュニケーション		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日の企業にとって社会、特に顧客(消費者・ユーザー)との間に円滑な関係を築くことは、健全な企業運営を継続する上で、大変重要な戦略の一つである。

特に今日の「食品の産地偽装問題」「自動車の欠陥車隠蔽問題」等々、本来あってはならない企業のアンフェアな行為が目に見える状況下、企業が顧客との間で正しい「コミュニケーション」を計ることは企業にとって正に大きな課題である。

更に、「IR」(インベスター・リレーション:企業が株主・投資家に対して行なう情報提供等の広報活動)も企業経営にとって大切な要件となり「コミュニケーション」の範囲も広がりを見せている。

また、「IT」技術の凄まじい進歩は、社会・顧客との「コミュニケーション」を図る上で、様々な状況の変化を生み出している。企業にとって「コミュニケーション」手段の選択も、その変化に対応するための大切な要件になっており、従来の知識だけでは克服できない大きなテーマでもある。

そこで、本講座では「コーポレーション(会社)」とは何かをまず真摯に整理し、更に「コーポレーション」の重要性を「マーケティング」視点に立って解説することで、「コーポレート・コミュニケーション」の現状と今日的課題について理解する。

その為の基本として「マーケティング」とは如何なる学問であるかを理解することで、より充実した人生観を醸成し、精神的にも豊かな生活が暮らせるような授業内容になる様配慮する。

内容

1	授業の概要とコーポレート・コミュニケーション(以下C・Cと略す)の全体像を解説する。
2	会社とは何かを解説すると同時に「C・C」の大切さを解説する。
3	「C・C」の定義について解説する。
4	「C・C」の歴史と今日までの変遷について説明する。
5	「C・C」活動の源流と初期PR活動の内容について説明する。
6	PR活動の拡大・定着とその経緯について解説する。
7	PR活動の変革を必要とする波と革新の必要性について解説する。
8	今後のPR活動と広報部門について説明する。
9	「C・C活動」の具体的内容を説明する。
10	現在の日本の「C・C」の問題点と課題について解説する。
11	今後の日本の「C・C活動」のあり方について説明する。
12	各種メディアの特性と「C・C活動」について解説する。
13	広報と広告の相違点とコミュニケーション活動について説明する。
14	まとめ (「C・C」の新たな展開について考える)
15	まとめ (「C・C」の理解度を確認する)

評価

本講座における評価方法は、原則 3 分の 2 以上の授業に出席し期末テスト（ペーパーテスト）等により総合評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『目盛りを変える、日本が見える』 崎山嗣夫著（日本経済新聞社刊）

『企業改革への道、一顧客視点の発想』 崎山嗣夫著（日本経済新聞社刊）

科目名	貿易実務		
担当教員名	貝島 良太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目のねらいは、貿易に関するさまざまな業務内容と考え方を、大手電気メーカーの輸出部門で実際に貿易業務に携わっていた者の体験談などを直接聞くことにより、受講者に貿易に対する理解を深めるてもらうことにあります。

科目の概要

一口に貿易といっても、輸出と輸入があります。どちらもマーケティングから始まり、見積、契約、出荷、輸送、通関、入金/支払い、クレーム、保険などと多岐にわたります。この講座では、企業で貿易関連業務に携わる場合、事前に理解しておくことが必要となる貿易の初級知識を講義します。授業は主としてパワーポイントを使用して行ないます。とくに「重量物の輸送」と「輸出管理」の授業ではビデオ上映をします。また、お台場にある「東京税関」の見学会を開催するなど、極力分かりやすい授業を目指します。

全15回の授業内容は次のとおりですが、話題の順序を入れ替えることもあります。

学修目標

実社会で貿易関連の業務に携わることを希望する人、貿易について予備知識を得ておきたいという人を対象に、貿易業務の基礎知識を習得してもらいます。

内容

1	概論1(本講座の進め方、貿易とは何か)
2	概論2(統計から見た日本の貿易)
3	国際間の契約条件
4	見積から契約まで
5	荷造りと輸送
6	大型機械などの重量物の輸送
7	海上輸送保険
8	代金回収
9	輸入1
10	輸入2
11	プラントものの現地側受入れ事情
12	輸出管理(危険国への輸出規制)
13	コレボン(商業英語)
14	東京税関(見学会)
15	まとめ

評価

小テスト(15分程度、50点満点)および、税関見学会のレポート(A4 1枚、50点満点)を合計したものに、出席

率を乗じて評価します。60点以上を合格とします。特に11週以上の出席者には恩典として累進的加点をします。出席率と計算方法については、概論1で説明します。合格点に満たなかった人への再試験はありません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

(1) 『改訂版 よくわかる貿易実務入門』・片山立志著・日本能率協会マネジメントセンター

【参考図書】

(1) 『貿易の英語（第2版）』・羽田三郎、島弘祐 共著・森北出版

(2) 『Incoterms 2010（英日対訳版）』・国際商業会議所 日本委員会

(3) 『日本貿易の現状 2011年版』・社団法人日本貿易会

科目名	意思決定手法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

最適な意思決定のためには、得られたデータや情報を最大限に活用し、これらを分析することにより起こりうる結果を推測することが必要である。経営学を学ぶ上で、オペレーションズリサーチの基礎的知識は必須である。本科目では、オペレーションズリサーチの代表的な問題である、「線形計画法」「在庫管理問題」「待ち行列問題」などについてについて、Excelによる演習を通して具体的に学習していく。

内容

- 1 意思決定手法とは
- 2 自動販売機のつり銭問題
- 3 乱数と確率モデル
- 4 最適化問題(1)
- 5 最適化問題(2)
- 6 ディシジョンツリーと決定問題
- 7 決定問題(1) バイク問題
- 8 決定問題(2) 社員採用問題
- 9 在庫問題(1) 新聞売り子問題
- 10 在庫問題(2) 定期発注方式
- 11 在庫問題(3) 発注点発注方式
- 12 待ち行列問題(1) 定期到着
- 13 待ち行列問題(2) マクロの活用
- 14 待ち行列問題(3) ランダム到着
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 課題の提出状況と達成度(40%)
- 2 . 最終課題の達成度(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ シミュレーション』荒木 勉・栗原和夫著(実教出版)

【推薦書】『マーケティングデータ解析』木島 正明 他 編著(朝倉書店) ISBN4-254-29502-2

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、世界的に多様な分野において利用されている統計パッケージSPSSを用いて、実践的なマーケティングリサーチの手法について学ぶことを目的としている。マーケティングリサーチの手順と方法について知ると共に、調査票の作成、調査の実施、データ分析、発表の一連の作業について実習を行い、実践力を身につける。

内容

- 1 マーケティングリサーチとはなにか
- 2 リサーチプロセスと課題の発見
- 3 リサーチデザインとデータ収集
- 4 質問紙の作成(1)技法
- 5 質問紙の作成(2)演習1
- 6 質問紙の作成(3)演習2
- 7 調査の実施とデータ入力
- 8 SPSSによる調査データ処理
- 9 SPSS による調査データ分析(1)基本統計
- 10 SPSS による調査データ分析(2)検定・分散分析
- 11 SPSS による調査データ分析(3)回帰分析・因子分析
- 12 グラフ作成技法
- 13 プレゼンテーション作成技法(1)
- 14 プレゼンテーション作成技法(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出(30%)
- 2 . 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【参考図書】『『MBAマーケティングリサーチ入門』高田博和 他 著(東洋経済新報社)
『SPSS でやさしく学ぶ統計解析』室・石村著(東京書籍) 417/M

科目名	中小企業論		
担当教員名	小笠原 富美子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「企業経営およびコンサルティングに関する基礎的な知識」を身につけることを目標とする。具体的には、問題発見・解決手法のための論理的な思考法やコミュニケーション技術、プレゼンテーション技術を学習する。これらは、企業経営に携わらなくても、社会にでて必要な知識である。

内容

1	ガイダンス
2	論理的思考法(ロジカル・シンキング)とは
3	論理的思考法(ロジカル・シンキング)演習
4	コーチングとは
5	コーチング演習
6	ブレイン・ストーミング、KJ法とは
7	ブレイン・ストーミング、KJ法演習
8	まとめ
9	中小企業論 中小企業とは
10	中小企業論 法人とは
11	プレゼンテーション
12	プレゼンテーション演習
13	ホームページ作成(演習)
14	これまでの復習
15	まとめ

評価

途中で理解度を確認し、理解を深めるために、小テストを行う。

評価は、ペーパーテスト(小テスト20%、定期試験30%)、演習時のレポート30%、通常の授業態度10%

3分の2以上出席すること評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 使用せず

【推薦書】

・『問題解決手法の知識 <第2版>』 高橋 誠 著 日経文庫 336.2/T

・『プレゼンテーションの進め方 <第3版>』 山口 弘明 著 日経文庫 336.4/Y

【参考図書】

・『コーチング・バイブル』 ローラ・ウィットワース 他 著 東洋経済新報社

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、その限界を検証しながら賢い消費者としての知識を身につける。

内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【各論】高齢者・未成年者の法律問題
5	【各論】金融機関と消費者問題
6	【各論】信用取引と消費者問題
7	【各論】破産・倒産と消費者
8	【各論】マルチ商法・ネズミ講
9	【各論】不動産と消費者問題(前半)
10	【各論】不動産と消費者問題(後半)
11	【各論】情報化社会と消費者問題
12	【紛争解決と消費者】裁判所と消費者、裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
13	【紛争解決と消費者】行政と消費者
14	【紛争解決と消費者】教育と消費者
15	まとめ

評価

提出物・授業態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。

100点満点中50点が単位取得の下限となる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	意思決定手法基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

最適な意思決定のためには、得られたデータや情報を最大限に活用し、これらを分析することにより起こりうる結果を推測することが必要である。経営学を学ぶ上で、オペレーションズリサーチの基礎的知識は必須である。本科目では、オペレーションズリサーチの代表的な問題である、「線形計画法」「在庫管理問題」「待ち行列問題」などについてについて、Excelによる演習を通して具体的に学習していく。

内容

- 1 意思決定手法とは
- 2 自動販売機のつり銭問題
- 3 乱数と確率モデル
- 4 最適化問題(1)
- 5 最適化問題(2)
- 6 ディシジョンツリーと決定問題
- 7 決定問題(1) バイク問題
- 8 決定問題(2) 社員採用問題
- 9 在庫問題(1) 新聞売り子問題
- 10 在庫問題(2) 定期発注方式
- 11 在庫問題(3) 発注点発注方式
- 12 待ち行列問題(1) 定期到着
- 13 待ち行列問題(2) マクロの活用
- 14 待ち行列問題(3) ランダム到着
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 課題の提出状況と達成度(40%)
- 2 . 最終課題の達成度(60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ シミュレーション』荒木 勉・栗原和夫著(実教出版)

【推薦書】『マーケティングデータ解析』木島 正明 他 編著(朝倉書店) ISBN4-254-29502-2

科目名	新規事業開発		
担当教員名	中嶋 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

800社を超えるベンチャービジネス(起業)支援の現場から見た成功例、失敗例を元に新規事業開発(起業)に必要な事柄を総合的に勉強します。誰もが経営者になる可能性を持っています。経営者としての考え方、不可欠な基礎知識や昨今、増加しているアイデアを活かした学生起業家、女性起業家、社会起業家の取組みについても勉強します。新規事業開発に必要なものは 情報 経済 政治 アイデア 志(考え方) 知識 歴史です。就職の際でも必要な事柄を丁寧に指導していきます。

科目の概要

最新情報(日経から)を15分程度講義(毎回)世界、日本経済の勉強(講義1.2.3)起業の実態と成功例、失敗例、実地研究(講義4.5.6)政治、歴史の勉強(講義7.8)アイデアの活かし方(講義 9.10)経営の基本、考え方、決算、資金調達など(講義11.12)全体のおさらい(講義13.14.15)

学習目標

新規事業開発(起業)に必要な事柄を幅広く勉強します。毎回配布する資料を元に、大事な事柄は繰り返し授業を行い、最低限の理解が得られる様にします。2回のレポート提出と一回の感想文により、一層の理解を深めていきます。又、具体例を多く取り入れて実践的で解りやすい指導を行います。

内容

社会人として、又新規事業開発(起業)に最低限必要な事柄については、重複して行います。

(授業の順番についても変更もあります)

1	新規事業開発授業の進め方の説明・日本経済の現状と今後の流れ
2	世界経済の現状と今後の流れ・相田みつをの研究(モットー作り)
3	新規事業開発に必要な景気の動向と対策について
4	起業の実態と起業に必要なもの
5	起業での成功例と成功する秘訣
6	起業での失敗例と注意点
7	新規事業開発に必要な政治の大切さと歴史(近代史)
8	新規事業開発に必要な政治の大切さと歴史(近代史)
9	アイデアの活かし方 実例を使ったシュミレーション演習
10	アイデアの活かし方 実例を使ったシュミレーション演習
11	経営の基本、考え方、決算書の見方、資金調達など
12	経営の基本、考え方、決算書の見方、資金調達など
13	全体の復習と覚えるべき事項の確認
14	全体の復習と覚えるべき事項の確認
15	全体の復習と覚えるべき事項の確認

評価

授業内容に基づいたレポート2回（70点）、感想文（20点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

なし

科目名	管理会計論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業経営における諸活動は最終的には財務(会計)数値に帰結する。そのため、企業経営を行うためには財務数値の理解と活用が不可欠になる。企業の外部利害関係者のために企業の経営成績や財務状態を明らかにするのが財務会計であり、経営管理に財務数値を役立たせるのが管理会計である。管理会計は経営のための会計であり、管理会計と呼ぶよりは経営会計と言うべきである。

管理会計論は、簿記会計論と経営学や経営戦略論の融合する領域であり、財務数値を用いて経営管理や経営戦略がいかに運営・構築されていくかについて理解する。

本講座では、簿記会計をベースとして、算出された財務数値を応用し、いかに経営管理に役立たせていくかについて学ぶ。

内容

1	管理会計の意義
2	経営分析(1)
3	経営分析(2)
4	損益分岐点分析(1)
5	損益分岐点分析(2)
6	固変分解
7	予算管理制度(1)
8	予算管理制度(2)
9	分権化と組織のコントロール・システム
10	標準原価計算
11	投資決定(1)
12	投資決定(2)
13	A B CとA B M(活動基準原価計算と活動基準を用いた原価低減のマネジメント)
14	B S C(バランス・スコアカード)による経営改革
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『管理会計・入門』 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子 著 有斐閣アルマ

科目名	監査論		
担当教員名	浅野 昌孝		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 監査論の基礎知識を習得する。
2. 監査論は、会計学に比べて内容が抽象的になるので、可能な限り新聞等で報道された事例・事件をとりあげて講義を進めていく。こうした時事的な問題を取り上げて、監査についての理解を深める。

内容

1	当年度講義の概要、新聞記事等に見る監査をめぐる事例等
2	監査の意味と必要性
3	監査の意味と必要性
4	監査の種類
5	監査人
6	監査人
7	日本の監査制度
8	監査基準
9	監査の実施プロセス
10	内部統制監査
11	監査意見と監査報告書
12	監査意見と監査報告書
13	四半期レビュー・連結財務諸表監査
14	監査が抱える課題
15	まとめ

評価

毎回の講義内容についての簡単なレポート(60点)と筆記試験(40点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、レジユメを用いる予定。

科目名	ビジネス税務		
担当教員名	円城寺 大樹		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講義では、実務において重要となる法人税、消費税、所得税の主要な論点について解説をするとともに、理論的側面のみならず普段中小企業において行なわれている経理業務からはじまり決算業務、申告書の作成に至るまでの一連の手続きについて実務的な側面の理解を深めることを目的としている。

内容

1	税金の種類把握
2	給与所得の理解と給与計算
3	給与所得の理解と給与計算 演習を中心に
4	医療費控除、寄附控除、住宅取得控除
5	年末調整と確定申告
6	消費税の基本的理解
7	消費税の課税対象、非課税対象
8	納税義務者と納税義務の免除
9	売上にかかる消費税と仕入税額控除
10	簡易課税制度
11	会社利益と課税所得の関係
12	同族会社
13	給与の取扱い 役員給与と使用人給与
14	配当に関する課税関係
15	まとめ

評価

期末のペーパーテスト(60点)、レポート(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布します。参考図書は随時紹介します。

科目名	BATIC		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、急速にグローバル化が進展する中で、ビジネスの言語とされる会計についても世界共通化の動きが非常に活発となっている。我が国もこの動きに合わせ、国際的な会計制度に対する早急な対応が求められるのが現状である。本科目では、現在、世界各国が注目し、急速に拡がりつつある国際会計について、その基本的な制度と理論を学修していく。英語による最先端の会計制度の学修を通じて、グローバルな視点で企業の経済活動を分析できる能力を習得していく。なお、本科目を履修するためには日商簿記3級の知識が必要不可欠である。講義は日商簿記3級レベルの知識を有することを前提に展開されるため、必ず日商簿記3級の知識を網羅的に確認した上で参加するようにしてもらいたい。さらに本科目は、「国際会計検定Subject1」の範囲を網羅しており、是非、当資格の取得を目指して欲しい。

講義ではまず、国際的な会計制度の歴史や制度的背景に関する概要を説明し、その上で、具体的な英文会計の基礎を学んでいく(講義1~11)。さらに、国際会計の基礎となる理論を学ぶと共に、実際に作成した財務諸表を分析するためのツールを習得し(講義12, 13)、米国で開発された企業のコーポレート・ガバナンスのための厳格な仕組みである「内部統制」について概観していく(講義14)。

学修目標は次の通りである。1. 国際的な会計の制度的背景を理解する。2. 専門的な会計英語について理解する。3. 簿記の知識を基礎として、英文会計に関する基本的な仕組みと制度を理解する。4. 英文財務諸表から得られる財務的情報を分析する能力を習得する。

内容

1	IFRS and U.S.GAAP(国際財務報告基準と米国会計基準)
2	Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping(会計と簿記の基本概念)
3	Sales Transaction(商品売買取引), Interest Bearing Notes(利子付手形)
4	Journals(仕訳帳)
5	Ledgers and Subsidiary Ledger(元帳と補助元帳)
6	Chart of Accounts (勘定科目), Trial Balance(試算表)
7	Adjusting Entries (決算修正仕訳) - Deferred and Accrued Accounts(経過勘定)
8	Adjusting Entries (決算修正仕訳) - Depreciation(減価償却)
9	Accounting for Inventory and Cost of Goods Sold(棚卸資産と売上原価の会計処理)
10	Closing Entries(締め切り仕訳)
11	Financial Statements (財務諸表)
12	Accounting Theory (会計理論)
13	Financial Statement Analysis (財務分析)
14	Internal Control (内部統制)
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】『新版BATIC Subject1公式テキスト Bookkeeper & Accountant Level』東京商工会議所，『新版BATIC Subject1問題集 Bookkeeper & Accountant Level』東京商工会議所

【参考図書】桜井 久勝『テキスト 国際会計基準（第5版）』白桃書房
随時教室で紹介する。

科目名	BATIC		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、ビジネス界のグローバルスタンダードとして現在最も注目されている国際会計について、重要な上級論点に的を絞ってその具体的な会計処理と理論的な背景を学修していく科目である。本科目は、「BATIC」に比べて、よりハイレベルな国際会計の個別論点を扱っていく。要求される会計知識は日商簿記1級もしくは公認会計士・税理士試験における財務会計論・簿記論レベルであるため、英語のみならず会計のレベルも従来の会計科目と比して飛躍的に高度になる。しかしながら、当科目で扱う論点は、実務でも重要視されている論点ばかりであるため、実践に近い「生きた会計」を学ぶ絶好の機会と捉えてもらいたい。会計に少しでも興味がある学生であれば、講義に積極的に参加することにより到達可能なレベルである。本科目は、「国際会計検定Subject2」のアカウントिंगマネジャーレベル(Accounting Manager Level)に対応しているため、是非、当資格の取得を目指して欲しい。

講義では、個別取引を中心に、国際会計の会計処理とその背景にある考え方について具体的に学習していく(講義1~13)。最後に、国際会計の重要な概念の一つである「包括利益」について、「純利益」との違いを意識しながら既に学習した国際会計の理論に照らして検討していく(講義14)。

学修目標は以下の通りである。1. 国際会計の制度的背景を理解する。2. 高度で専門的な会計英語について理解する。3. 国際会計についてその具体的な会計処理方法や理論的背景を理解する。4. 国際会計の重要な論点について我が国の会計制度との違いを理解する。

内容

1	Basic Features of International Accounting(国際会計の基本的な特徴)
2	Financial Statements(財務諸表)
3	Comprehensive Income(包括利益)
4	Cash(現金), Accounts Receivable(売掛金)
5	Recognition of Revenue(収益の認識)
6	Inventories(棚卸資産)
7	Property, Plant, and Equipment(有形固定資産)
8	Asset Retirement Obligation(資産除去債務), Impairment loss(減損損失)
9	Outline of Leases(リース取引の概要)
10	Capital Lease(資産計上されるリース取引)
11	Intangible Assets(無形固定資産), Research and Development Costs(研究開発費)
12	Computer Software(コンピュータ・ソフトウェア), Securities(有価証券)
13	Classification of Investment Securities(投資有価証券の分類)
14	Net Income and Comprehensive Income(純利益と包括利益)
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】東京商工会議所編『BATIC Subject 2 公式テキスト<2010年度版>』中央経済社
，東京商工会議所編『BATIC Subject 2 問題集<2010年度版>』中央経済社

その他適宜，補助レジユメを配付する。

【参考図書】桜井 久勝『テキスト 国際会計基準（第5版）』白桃書房

その他，随時教室で紹介する。

科目名	BATIC		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、ビジネス界のグローバルスタンダードとして現在最も注目されている国際会計について、重要な上級論点に的を絞ってその具体的な会計処理と理論的な背景を学修していく科目である。本科目は、「BATIC」に比べて、よりハイレベルな国際会計の個別論点を扱っていく。要求される会計知識は日商簿記1級もしくは公認会計士・税理士試験における財務会計論・簿記論レベルであるため、英語のみならず会計のレベルも従来の会計科目と比して飛躍的に高度になる。しかしながら、当科目で扱う論点は、実務でも重要視されている論点ばかりであるため、実践に近い「生きた会計」を学ぶ絶好の機会と捉えてもらいたい。会計に少しでも興味がある学生であれば、講義に積極的に参加することにより到達可能なレベルである。本科目は、「国際会計検定Subject2」のアカウントिंगマネジャーレベル(Accounting Manager Level)に対応しているため、是非、当資格の取得を目指して欲しい。

講義では、個別取引を中心に、国際会計の会計処理とその背景にある考え方について具体的に学習していく(講義1~13)。最後に、国際会計の重要な概念の一つである「包括利益」について、「純利益」との違いを意識しながら既に学習した国際会計の理論に照らして検討していく(講義14)。

学修目標は以下の通りである。1. 国際会計の制度的背景を理解する。2. 高度で専門的な会計英語について理解する。3. 国際会計についてその具体的な会計処理方法や理論的背景を理解する。4. 国際会計の重要な論点について我が国の会計制度との違いを理解する。

内容

1	Basic Features of International Accounting(国際会計の基本的な特徴)
2	Financial Statements(財務諸表)
3	Comprehensive Income(包括利益)
4	Cash(現金), Accounts Receivable(売掛金)
5	Recognition of Revenue(収益の認識)
6	Inventories(棚卸資産)
7	Property, Plant, and Equipment(有形固定資産)
8	Asset Retirement Obligation(資産除去債務), Impairment loss(減損損失)
9	Outline of Leases(リース取引の概要)
10	Capital Lease(資産計上されるリース取引)
11	Intangible Assets(無形固定資産), Research and Development Costs(研究開発費)
12	Computer Software(コンピュータ・ソフトウェア), Securities(有価証券)
13	Classification of Investment Securities(投資有価証券の分類)
14	Net Income and Comprehensive Income(純利益と包括利益)
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】東京商工会議所編『BATIC Subject 2 公式テキスト<2010年度版>』中央経済社
，東京商工会議所編『BATIC Subject 2 問題集<2010年度版>』中央経済社

その他適宜，補助レジユメを配付する。

【参考図書】桜井 久勝『テキスト 国際会計基準（第5版）』白桃書房

その他，随時教室で紹介する。

科目名	資産運用設計		
担当教員名	平野 昭昌		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

皆さんのライフデザイン(将来の夢や目標)を実現するには、しっかりした生活設計が必要です。この科目は、生活設計を経済面から考えるファイナンシャル・プランニング(FP)を取り上げ、前期の「ライフ設計」と合わせて、FPの6つの分野を学びます。

科目の概要

生活設計に不可欠なFP6分野のうち、金融資産、不動産、税金の3分野について、各3分の1の割合で、社会人として知っておくべき、基礎的かつ日常生活に役立つ実践的な事項を学びます。

学修目標

次の3点です。

1. 配布するプリントによる講義で基礎的な知識を理解する。
2. レポートや講義で示す具体的な事例を通して活用力を養う。
3. FP技能士資格に関心のある人は、資格試験の過去問などを参考に3級レベル到達を目指す。

内容

1	金融資産の基礎知識
2	経済環境の把握と金利
3	預金、信託、債券
4	株式、投資信託、外貨建商品
5	金融資産の保有、セーフティネット
6	不動産の基礎知識
7	不動産の取引(売買、賃貸借)
8	不動産に関する法律
9	不動産の有効活用
10	税金と所得税の基礎知識
11	所得税の計算
12	所得税の計算
13	所得税の申告と納付、個人住民税
14	金融資産と不動産に関する税金
15	まとめ

評価

レポート(40点。金融資産、不動産、税金各1回 計3回)と筆記試験(60点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。プリントを配布する。

【参考図書】きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著『最短合格3級FP技能士』株式会社きんざい、
(株)ポラーノ・コンサルティング編著『速習FP技能士2級・AFP合格テキスト』(株)経済法令研究会

科目名	ライフ設計		
担当教員名	深澤 泉		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

企業を営むことと同様、私たちが人生80年を全うするためには、生活設計に必要なお金のプラン(ファイナンシャル・プランニング)を行っていくことが大切です。企業における資金繰り、リスク管理の手法を家庭経済にとりこむ手法を学びます。後期の「資産運用設計」と併せて受講することにより、より専門性の幅をひろげることができます。

科目の概要

まず生涯を通じた生活設計の立て方の基礎を学びます。そして住宅取得資金プラン、老後資金の準備、生命保険・損害保険を活用した保障の設計、相続対策といった、具体的なファイナンシャル・プランニングの基礎を学びます。

学修目標

国家技能検定である「3級FP技能士」(個人資産相談業務)の合格レベルの知識を習得すること目標とします。

内容

1	ライフプランニングの概要
2	キャッシュフロー表 係数表の活用 教育資金の設計
3	住宅取得資金 健康保険
4	健康保険 雇用保険 労働者災害補償保険 公的年金
5	公的年金 各種年金制度
6	保険制度 生命保険商品
7	損害保険商品 第三分野の商品
8	保険契約の内容 保険契約の保護のしくみ
9	保険税務
10	相続と法律
11	相続税の計算 相続財産の評価
12	相続財産の評価 相続税の申告・納税
13	贈与
14	3級ファイナンシャル・プランニング技能士に必要な知識
15	まとめ

評価

レポート45点(45%)、ペーパーテスト55点(55%)により評価を行い、60点以上で合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『速習FP技能士3級合格テキスト（'10～11年版）』（（株）ポラーノ・コンサルティング編著 経済法令研究会）

【推薦書】【参考図書】『ゼロから学ぶ！ファイナンシャル・プランニング講座』（きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著）

科目名	証券分析論		
担当教員名	吉成 正夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

科目の性格

証券投資の考え方を学びます。証券投資は、経済や金融、企業分析の学習を前提にしていますが、証券分析論は、株式、債券、為替、商品などの基礎知識と市況変動の要因を学習します。

科目の概要

これから社会人として、あるいは自分の生活設計を立てていくうえで、必要な証券の基礎知識と証券投資の考え方を学びます。

学修目標

株式、債券、為替など証券市場の仕組みを理解し株式の投資指標の計算の仕方を習得します。

債券利回り計算を理解し債券投資に役立てます。グローバル化時代の為替変動要因を学習します。

レポートの提出または小テストを行います。

内容

1	証券指標について理解し、データを収集し表を作成する(後日提出)
2	証券の基礎知識
3	株式の基礎知識、株主の権利など
4	配当割引モデルの考え方
5	株式の投資尺度、株式の需給
6	投資と投機、安全資産とリスク資産
7	債券の仕組みと特徴
8	債券の利回りと分析
9	国債について
10	外国為替の基礎知識
11	為替市況の考え方
12	投資信託について
13	証券投資と投資家心理、分散投資の考え方
14	証券投資と統計学
15	まとめ

評価

レポート等で評価します。60点を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

「スノー・ボール...ウォーレン・バффェット伝」アリス・シュローダー著、日本経済新聞社、2009

「証券分析（1934年版）」ベンジャミン・グレアム+デビット・L・ドット著、パンローリング社、2002

「証券投資の思想革命」ピーター・バーンスタイン著、東洋経済新報社、1993

科目名	証券市場論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、金融に関する講義である。

科目の概要

経済のいろはから日本の資本市場の全容、そして株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法や投資とリスク&リターンの考え方などを実務の観点から解説します。

学修目標

経済の基本からスタートして、投資についての基本的な考え方を理解する。

内容

1	ガイダンス
2	経済事情事始め
3	外国為替のいろは
4	リスト&リターン
5	ポートフォリオの考え方
6	債券入門
7	株式入門
8	投資信託入門
9	投資家心理を学ぶ
10	資産運用とライフプランニング
11	日本株の歴史
12	金融の仕組み
13	財政の仕組み
14	金融市場のゆくえ
15	まとめ

評価

中間試験(30%)、最終試験(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	金融論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、金融分野の基礎科目である。

科目の概要

金融の基礎的知識と理論を幅広く学習していきます。マクロの金融政策からミクロの金融理論、金融制度についても学習します。さらに話題の金融に関するテーマについても取り上げます。FP 技能士、証券アナリスト等の試験にも対応します。

学修目標

金融に関する基礎的な概念を理解し、金融の諸問題についての理解を深めることを目標にする。

内容

1	ガイダンス
2	金融とは何か
3	日本銀行の組織
4	日本銀行の役割
5	伝統的な金融政策
6	非伝統的な金融政策
7	日本のバブル
8	サブプライムローン
9	国債危機
10	銀行と証券会社の機能
11	生命保険会社と損害保険会社の機能
12	金融監督政策
13	外国為替市場
14	世界金融危機と日本
15	まとめ

評価

中間試験(30%)、最終試験(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	ファイナンスの数理と実務		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、1, 2年次の講義をまとめてさらに実践する科目である。

科目の概要

1980年代以降、アメリカを中心に発展してきた金融工学について理解することを狙いとする。特に、先物取引やオプション取引などのデリバティブ商品などについて詳しく扱う。金融に内在するリスクの定量化には数理的な側面を避けて通れないのだが、パソコンを利用することで、あまり数学の世界に深入りしないでも、かなりの不確実性を数値にすることが可能となっている仕組みを理解する。また、さまざまな金融商品を学習し、その上で、株取引や為替取引のシミュレーションを経験する。

学修目標

デリバティブなどの概念を理解する。

内容

ガイダンス

- 0) ファイナンスとは何か
- 1) ファイナンスの統計処理基礎
- 2) 財務分析
- 3) 投資の考え方
- 4) 株式投資の実際
- 5) ポートフォリオの構成
- 6) 債券の計算
- 7) 先物とオプション
- 8) 証券分析の演習
- 9) 外国為替取引
- 10) まとめ

評価

毎回の課題(60%)、最終課題(40%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	企業情報システム 1 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R/3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3 を実際に操作することによりERP を学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3 の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。この演習は、R/3 が実際企業で使用されているのと同じ環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

1	SAP-R3 を用いてERP (統合基幹情報システム) に関する概要理解
2	R3 の操作演習 (1) : 基礎
3	R3 の操作演習 (2) : 実践
4	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (1)
5	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (2)
6	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力 (3)
7	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (1)
8	財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の検索 (2)
9	英文による上記会計処理演習 (1)
10	英文による上記会計処理演習 (2)
11	損益計算書, 貸借対照表の作成 (1)
12	損益計算書, 貸借対照表の作成 (2)
13	R/3 先進導入企業の事例研究 (1)
14	R/3 先進導入企業の事例研究 (2)
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度 (30 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価とし、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム 2 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっている SAP 社、ならびに、SAP-R3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理 (MM)、生産管理 (PP)、販売管理 (SD)、管理会計 (CO)、プロジェクト会計 (PS) のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム 1 の既習が望まれる。

内容

1	企業における業務システムの概要
2	取引入力 of 復習
3	取引検索 of 復習
4	購買活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
5	購買活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
6	生産活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
7	生産活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
8	販売活動に関する業務 (1) : 業務処理の理解、取引入力 of 説明
9	販売活動に関する業務 (2) : 取引入力 of 練習
10	管理会計と財務会計について : 会計システムの理解、取引入力 of 説明
11	経営における組織管理と管理会計について : 取引入力 of 説明・練習
12	英文による上記会計処理演習
13	R / 3 を操作するためのプログラミング基礎
14	購買・生産・販売に至る一連の業務活動プロセスについての練習
15	まとめ

評価

評価方法は、授業への参加態度 (20 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価により、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	BATIC入門		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、急速にグローバル化が進展する中で、ビジネスの言語とされる会計についても世界共通化の動きが非常に活発となっている。我が国もこの動きに合わせ、国際的な会計制度に対する早急な対応が求められるのが現状である。本科目では、現在、世界各国が注目し、急速に拡がりつつある国際会計について、その基本的な制度と理論を学修していく。英語による最先端の会計制度の学修を通じて、グローバルな視点で企業の経済活動を分析できる能力を習得していく。なお、本科目を履修するためには日商簿記3級の知識が必要不可欠である。講義は日商簿記3級レベルの知識を有することを前提に展開されるため、必ず日商簿記3級の知識を網羅的に確認した上で参加するようにしてもらいたい。さらに本科目は、「国際会計検定Subject1」の範囲を網羅しており、是非、当資格の取得を目指して欲しい。

講義ではまず、国際的な会計制度の歴史や制度的背景に関する概要を説明し、その上で、具体的な英文会計の基礎を学んでいく(講義1~11)。さらに、国際会計の基礎となる理論を学ぶと共に、実際に作成した財務諸表を分析するためのツールを習得し(講義12, 13)、米国で開発された企業のコーポレート・ガバナンスのための厳格な仕組みである「内部統制」について概観していく(講義14)。

学修目標は次の通りである。1. 国際的な会計の制度的背景を理解する。2. 専門的な会計英語について理解する。3. 簿記の知識を基礎として、英文会計に関する基本的な仕組みと制度を理解する。4. 英文財務諸表から得られる財務的情報を分析する能力を習得する。

内容

1	IFRS and U.S.GAAP(国際財務報告基準と米国会計基準)
2	Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping(会計と簿記の基本概念)
3	Sales Transaction(商品売買取引), Interest Bearing Notes(利子付手形)
4	Journals(仕訳帳)
5	Ledgers and Subsidiary Ledger(元帳と補助元帳)
6	Chart of Accounts (勘定科目), Trial Balance(試算表)
7	Adjusting Entries (決算修正仕訳) - Deferred and Accrued Accounts(経過勘定)
8	Adjusting Entries (決算修正仕訳) - Depreciation(減価償却)
9	Accounting for Inventory and Cost of Goods Sold(棚卸資産と売上原価の会計処理)
10	Closing Entries(締め切り仕訳)
11	Financial Statements (財務諸表)
12	Accounting Theory (会計理論)
13	Financial Statement Analysis (財務分析)
14	Internal Control(内部統制)
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】『新版BATIC Subject1公式テキスト Bookkeeper & Accountant Level』東京商工会議所，『新版BATIC Subject1問題集 Bookkeeper & Accountant Level』東京商工会議所

【参考図書】桜井 久勝『テキスト 国際会計基準（第5版）』白桃書房
随時教室で紹介する。

科目名	BATIC初級		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、ビジネス界のグローバルスタンダードとして現在最も注目されている国際会計について、重要な上級論点に的を絞ってその具体的な会計処理と理論的な背景を学修していく科目である。本科目は、「BATIC入門」に比べて、よりハイレベルな国際会計の個別論点を扱っていく。要求される会計知識は日商簿記1級もしくは公認会計士・税理士試験における財務会計論・簿記論レベルであるため、英語のみならず会計のレベルも従来の会計科目と比して飛躍的に高度になる。しかしながら、当科目で扱う論点は、実務でも重要視されている論点ばかりであるため、実践に近い「生きた会計」を学ぶ絶好の機会と捉えてもらいたい。会計に少しでも興味がある学生であれば、講義に積極的に参加することにより到達可能なレベルである。本科目は、「国際会計検定Subject2」のアカウントティングマネジャーレベル(Accounting Manager Level)に対応しているため、是非、当資格の取得を目指して欲しい。

講義では、個別取引を中心に、国際会計の会計処理とその背景にある考え方について具体的に学習していく(講義1~13)。最後に、国際会計の重要な概念の一つである「包括利益」について、「純利益」との違いを意識しながら既に学習した国際会計の理論に照らして検討していく(講義14)。

学修目標は以下の通りである。1. 国際会計の制度的背景を理解する。2. 高度で専門的な会計英語について理解する。3. 国際会計についてその具体的な会計処理方法や理論的背景を理解する。4. 国際会計の重要な論点について我が国の会計制度との違いを理解する。

内容

1	Basic Features of International Accounting(国際会計の基本的な特徴)
2	Financial Statements(財務諸表)
3	Comprehensive Income(包括利益)
4	Cash(現金), Accounts Receivable(売掛金)
5	Recognition of Revenue(収益の認識)
6	Inventories(棚卸資産)
7	Property, Plant, and Equipment(有形固定資産)
8	Asset Retirement Obligation(資産除去債務), Impairment loss(減損損失)
9	Outline of Leases(リース取引の概要)
10	Capital Lease(資産計上されるリース取引)
11	Intangible Assets(無形固定資産), Research and Development Costs(研究開発費)
12	Computer Software(コンピュータ・ソフトウェア), Securities(有価証券)
13	Classification of Investment Securities(投資有価証券の分類)
14	Net Income and Comprehensive Income(純利益と包括利益)
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート（20点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（70点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト(教科書)】東京商工会議所編『BATIC Subject 2 公式テキスト<2010年度版>』中央経済社
，東京商工会議所編『BATIC Subject 2 問題集<2010年度版>』中央経済社，TAC簿記検定講座『合格
テキスト日商簿記1級商業簿記・会計学 2 Ver.8.0』TAC出版

その他適宜，補助レジユメを配付する。

【参考図書】桜井 久勝『テキスト 国際会計基準（第5版）』白桃書房

その他，随時教室で紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

多くの学生には、自らの就職活動にこのインターンシップを取り入れ、職業選択や将来設計について考える機会ととらえて積極的に参加してほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

ガイダンス：5月上旬に実施されるガイダンスで詳細説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施：夏季休暇期間中（前期）、または春季休暇期間中（後期）を中心に約2週間（実質10日、実働60時間以上）研修を行う。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：キャリアセンターが受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員：2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例（2010年度）

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、荒川区役所、あさ出版、NHK出版、オンワード樫山、ケイ・テクノ、ザ・ライトスタッフオフィス、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、蓼科情報、埼玉新聞社、丸正飯塚、リコージャパン

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート（40点）、受け入れ先評価（40点）、教員による巡回指導の状況確認（20点）の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など
2. 非言語分野の学習
 - 年齢算、仕事算、旅人算、流水算
 - グラフ・領域、資料解釈、空間把握
 - 順列組み合わせ、確率、n進法
 - 運動力学など
3. 言語分野の学習
 - 同意語、反対語、ことわざ・慣用句
 - 包含関係、行為関係、原料関係、用途関係
 - 複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

受講態度(50点)、試験(50点)をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	亀田 温子、泉 直子、角田 真二、松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

女性の人生をより豊かなものにするためには、職業を持つことが欠かせない。さまざまな分野で活躍する職業人の実例に触れながら、仕事をする事で何がえられるのか、自分の興味や能力を仕事で活かすにはどうしたらよいか考える。これによって、大学卒業後、スムーズに職業生活をスタートさせるための基盤をつくる。

「仕事が女性の人生をより豊かにする」ということを、3回のワークショップと10名の職業人の実例を通じて認識する。まず、1回目のワークショップでキャリア形成の基本となる考え方(興味、能力、価値観にそった仕事選びが充実した職業人生につながる)と各自が抱いている仕事に対するイメージを確認する。次いで、5名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について学び、2回目のワークショップで各自の興味や能力が活かせる仕事について考える。さらに、5名の職業人から自分にとって仕事とは何か、職業観・仕事観を学び、3回目のワークショップで職業生活からえられるものは何か考察する。そして最後に、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

内容

1	ガイダンス(大卒女子の労働の実情)
2	ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)
3	野本範子氏(リコージャパン(株))「女性経営職の楽しさと永年勤続の魅力」
4	遣田重彦氏(LVMH)「Employabilityとは？」
5	畠山一郎氏ほか(広告社)「コミュニケーションをデザインする仕事」
6	好本 恵氏(フリーアナウンサー)「アナウンサーと放送～その仕事の醍醐味」
7	りそな銀行員 銀行業務と女性の働き方
8	ワークショップ2(自分の能力や興味について考える)
9	菊田あや子氏(フリーアナウンサー)「仕事で人生を切り開く楽しさと充実感教えます」
10	石渡弘行氏(アイルピーソリューションズ)「『武器』としてのコミュニケーションスキル」
11	富士通社員 SEなど情報系の仕事
12	大西由華氏(ヒューマンスキル講師)「コミュニケーション力は一生物のスキル」
13	森 美香氏(NPOエンジェル・ケア・ハート)「起業をとおして自己表現」
14	ワークショップ3(仕事をする事で何がえられるのか)
15	まとめ(総括討論)

評価

講師10名ごとに提出するチェックリスト(60点)、ワークショップ3回の課題(30点)、および最終回の全体レポート(10点)の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に随時紹介する。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓、阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア業界は今、各メディアが提供する情報の濃密度や信頼性が問われ、生き残りをかけた競争がメディア間で激しくなっている。一方、情報の受け手である我々現代人は、超情報化社会を生き抜くためにも、マスメディア業界の現実(実態)を知り、いわゆるメディアリテラシーを身につける必要に迫られている。この意味で、科目の性格はマスメディア入門といった性格を持つ。

入門する一つの道は、新聞、放送、出版、インターネット、広告等々の各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。また、特にマスメディア業界は人的資源が財産である。いかに可能性を秘めた有能な人材をそろえるかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア業界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業は、マスメディア業界への就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、業界の現状と将来に向けた最新情報を提供する「傾向と対策」の場であり、マスメディア業界への就職活動を支援するものである。受講生は本科目をただ受講するのではなく、自分の日常生活において積極的に新聞、雑誌を読み、様々なテレビ番組を視聴することを半ば習慣化することが不可欠である。

内容

15回の授業内容は以下のとおりである。

- 1) ガイダンス・・・マスコミ業界の概要(新聞、放送、出版を中心に)
- 2) マスコミ業界の心得・・・メディア人としての義務と使命感
- 3) 報道(新聞)の変遷・・・新聞創刊期から現代までの歴史的諸問題
- 4) 報道(出版)の変遷・・・週刊誌創刊期からクラス系雑誌誕生まで
- 5) 報道(放送)の変遷・・・放送事業局開局から地デジへの展開と発展
- 6) 女性誌ファッション・・・ローティーン誌からヤング誌トレンド考
- 7) 女性誌クラス系分析・・・キャリア誌からシニア実用誌トレンド考
- 8) 広告媒体戦略とIT・・・ライブ感と市場マーケティング感覚養成
- 9) 芸能音楽業界の興亡・・・欧米と日本のショービジネス対比と連動
- 10) 書籍文藝とコミック・・・著作権とコンテンツビジネスの世界発信
- 11) マスコミ前期模擬試験・・・原稿&口頭試問TEST
- 12) 自己PRとES対策・・・自分史を具体的に文字と五感で表現する
- 13) 時事SPI筆記対策・・・新聞・放送・雑誌各媒体の相違と着眼点
- 14) 面接試験の最新動向・・・入社試験の最新動向と私服面接重点対策
- 15) マスコミ前期模擬試験・・・筆記&口頭試問TEST

評価

試験60点 + 授業中の発表40点 = 100点 60点以上が合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書、参考情報は随時、授業中に紹介する。

注意：本授業は、新聞・出版（書籍/雑誌）・放送（テレビ/ラジオ/番組制作会社）・インターネット・映画・音楽・広告など、いわゆるマスコミ業界への進出（=就職）を本気で目指している学生を対象に行うものである。マスコミの就職試験を受けることを（まったく）考えていない学生は受講対象とはしないので留意すること。

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により総合的に評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

我々が普段抱いている企業の姿は、ほんの一部分に過ぎない。真の意味で企業を知り、理解するためには、業界全体や企業の活動全体を理解した上で、具体的な企業のビジネスの仕組みや活動の成果に着目して詳細に分析・研究する必要がある。

会計は企業の実態を映す「鏡」であるといわれ、企業の比較分析に非常に優れたツールである。会計により企業の経営成績と財政状態が明らかとなり、さらにそれらを詳細に分析することによって、普段抱いているイメージとは違った企業の実態を掴むことができる。卒業演習では、3年次に修得したより専門性の高い会計知識を、さらに理論的に深め、企業や業界の分析・研究に役立てていく。各学生が選定した業界や企業について、財務会計の観点から研究・分析し、発表やディスカッションを通じて理解と考察を深める。そして、これらの成果を卒業研究として論文にまとめていく。

内容

演習で築き上げた会計に関する基礎的な知識をさらに深め、関心・興味のある業界や企業に関する資料や文献等を収集し、財務会計の視点から分析/研究していく。分析結果については各自で発表を行い、卒業論文の作成に生かしていく。

評価

卒業研究に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】随時教室にて指示する。

【参考図書】井上 良二『新版 財務会計論』税務経理協会、桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房、桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習 において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書使用せず

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 研究テーマ・組織の確定
- 2 仮説設定・調査対象の特定
- 3 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(1)
- 4 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(2)
- 5 既存データ・資料・文献の検討(1)
- 6 既存データ・資料・文献の検討(2)
- 7 調査項目作成のためのワーク(1)
- 8 調査項目作成のためのワーク(2)
- 9 調査表作成(1)
- 10 調査票作成(2)
- 11 調査票作成(3)
- 12 調査票作成(4)
- 13 調査票に関するディスカッション
- 14 予備調査準備
- 15 予備調査実施

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

3年次の演習、 を踏まえ、卒業論文作成を目指す。

学修目標

卒論完成に向けた準備を進める。

内容

演習 に引き続いて、卒論完成に向けて準備していく。アウトラインの作成、データの収集、資料づくりなどを適宜進めていく。その中で、2, 3回発表を行い、自分の研究の不備などを確認しながら、研究を進めていく。

評価

2度の中間発表を50%ずつ評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

科目の概要

卒業研究 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

学修目標

卒業論文の完成を目指す。

内容

卒業研究 に引き続いて、卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

評価

中間での発表(30%)、卒業論文(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

我々が普段抱いている企業の姿は、ほんの一部分に過ぎない。真の意味で企業を知り、理解するためには、業界全体や企業の活動全体を理解した上で、具体的な企業のビジネスの仕組みや活動の成果に着目して詳細に分析・研究する必要がある。

会計は企業の実態を映す「鏡」であるといわれ、企業の比較分析に非常に優れたツールである。会計により企業の経営成績と財政状態が明らかとなり、さらにそれらを詳細に分析することによって、普段抱いているイメージとは違った企業の実態を掴むことができる。卒業演習では、3年次に修得したより専門性の高い会計知識を、さらに理論的に深め、企業や業界の分析・研究に役立てていく。各学生が選定した業界や企業について、財務会計の観点から研究・分析し、発表やディスカッションを通じて理解と考察を深める。そして、これらの成果を卒業研究として論文にまとめていく。

内容

演習で築き上げた会計に関する基礎的な知識をさらに深め、関心・興味のある業界や企業に関する資料や文献等を収集し、財務会計の視点から分析/研究していく。分析結果については各自で発表を行い、卒業論文を完成させていく。

評価

卒業研究に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】随時教室にて指示する。

【参考図書】井上 良二『新版 財務会計論』税務経理協会、桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房、桜井 久勝『テキスト 国際会計基準(第5版)』白桃書房

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習 において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書使用せず

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 予備調査結果の基づく検討
- 2 調査票訂正
- 3 本調査の実施
- 4 変数管理・入力フォーマット作成
- 5 データ入力・クリーニング作業
- 6 調査データ分析(1)
- 7 調査データ分析(2)
- 8 調査データ分析(3)
- 9 調査データ分析(4)
- 10 論文作成(1)
- 11 論文作成(2)
- 12 論文作成(3)
- 13 発表資料・プレゼン作成(1)
- 14 発表資料・プレゼン作成(2)
- 15 発表

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により総合的に評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。